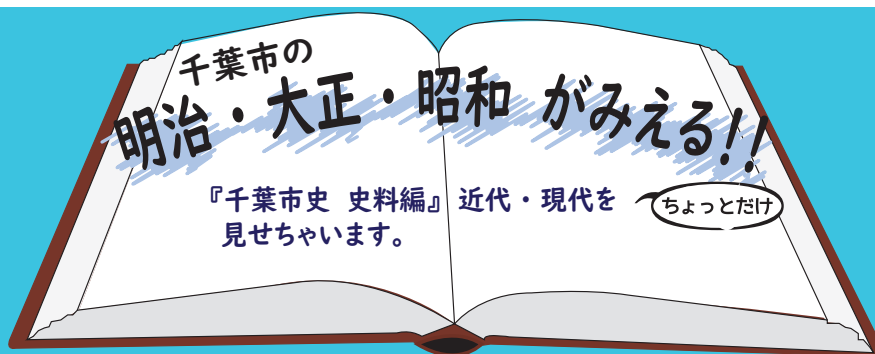




編さん便り

千葉市の明治・大正・昭和がみえる!!
第12回 大正時代の大きな災害……1-3
2024年度千葉市史主催講座のご案内……4

chiba-shishi News Letter NO.32 2024.3



本年3月の『千葉市史 史料編 11 近代2』刊行にあわせて、「千葉市の明治・大正・昭和がみえる!!」、第12回をお届けします。本史料集には、現在の千葉市域の明治末期から大正・昭和戦前・戦中期のようすを具体的に示す史料四二六点を収録しました。構成は下記のとおり。千葉市立郷土博物館で購入することができます。B5判、3,000円(税込)

はじめに

一大正期から昭和戦前・戦中期にかけての千葉市域のあゆみ

第一編 大正デモクラシー下の千葉市域

第一章 政治・行政の展開

- 第一節 明治末・大正初期の千葉町
- 第二節 市制の施行と市会の動向
- 第三節 大正・昭和初期の町村
- 第四節 大正デモクラシー期の政治情勢
- 第五節 軍郷千葉の形成

第二章 都市化の進展と産業・経済

- 第一節 都市計画とインフラの整備
- 第二節 大正・昭和初期の商工業と金融
- 第三節 大正・昭和初期の農業
- 第四節 ノリ・貝類養殖漁業の展開

第三章 市制施行前後の社会

- 第一節 第一次世界大戦後の社会
- 第二節 社会事業の展開
- 第三節 新しい教育の動向
- 第四節 伝染病予防と衛生
- 第五節 千葉開府八百年祭

第二編 戦争の時代

第一章 政治・行政と軍事

- 第一節 満州事変と戦争支持熱の高まり
- 第二節 混乱する市政と選挙粛正運動

- 第三節 「大千葉市」の誕生
- 第四節 軍事施設の拡充
- 第五節 翼賛体制下の市町村
- 第二章 統制下の産業・経済
 - 第一節 商業と澱粉工業・金融・労働
 - 第二節 農業生産の整備と統制
 - 第三節 戦時下の漁業協同組合と漁業権
 - 第四節 軍需工業の進出と都市計画
- 第三章 戦時下の社会と生活
 - 第一節 銃後の諸団体
 - 第二節 戦時下のくらし
 - 第三節 義務としての健康
 - 第四節 教育・娯楽・宗教の変容
 - 第五節 防空対策と空襲

別編

- 一 日本赤十字社千葉支部の戦時救護活動
- 二 東京帝国大学第二工学部の建築

史料解説 第一編・第二編・別編・参考文献
掲載史料の所蔵者・出典
おわりに

本号掲載第12回の中澤委員「大正時代の大きな災害」では、とくに「スペイン風邪」の流行についての新聞記事を軸に、その規模や当時の人びとが実際におかれた状況、そして日記や私小説の記載から垣間見える不安なようすなどについて、紹介いただきました。史料編第一編第三章第四節に、関連する史料を掲載していますので、こちらもあわせてご参照いただければ幸いです。

引き続き、ご担当の先生方からの解説を掲載し、少しでもわかりやすく市民のみなさまへお伝えしていこうと考えております。よろしくお願いたします。

第12回 大正時代の大きな災害

千葉市史編集委員 中澤 恵子

大正期には、歴史に残る大きな災害が二度起こりました。一つが、大正7(1918)～10年に大流行した流行性感冒(スペイン風邪)です。そして、もう一つが大正12年9月1日午前11時58分に首都圏を襲った関東大震災(マグニチュード7.9と推定)です。今回は流行性感冒についてご紹介します。

流行性感冒は、第一次世界大戦に参戦したアメリカ軍の中に最初の感染者が発生し、やがてヨーロッパ全土に戦争が拡大したことに伴って世界中で感染も広がり、アジアを経由して日本にも来襲して多くの犠牲者を出しました。日本国内では約38万～40万人もの死亡者が出たと言われています。表は、千葉県内の感染者数と死亡者数をまとめたものです。

令和2(2020)年1月に日本国内でも感染者が発見され、急速に蔓延した新型コロナウイルスの時と同様に、大正期の新聞にも連日のように感染者数・死者数や休校になった学校名などが報道されました。

内務省衛生局は全国的なデータをまとめて各地にその情報を発信し、飛沫によって感染を広げるこの伝染病(感染症)の予防方法を呼びかけました。その主な内容は、人混みに出ないこと、家庭内においても感染者と健康

表 千葉県内流行性感冒感染者数・死亡者数

流行時期	感染者数	死亡者数	致死率	備考
第1回流行期(大正7.8～大正8.7)	308,609人	3,588人	1.16%	※(参考)
第2回流行期(大正8.9～大正9.7)	29,675人	3,022人	10.18%	
第3回流行期(大正9.8～大正10.7)	1,312人	27人	2.06%	
合計	339,596人	6,637人	1.95%	

内務省衛生局編『流行性感冒「スペイン風邪」大流行の記録』から作成
 ※(参考)大正6年末現在の千葉県総人口は1,465,654人



史料 大正8年2月22日付『東京日日新聞』

者との接触をできるだけ避けること、うがい・手洗いを励行すること、そしてマスクを使用することなどが中心でした。また、予防方法を具体的に示す各種のポスターを作成しました。例えば乗り物に乗る際にマスクを着用している人々を描いたり、感染者が出た家庭では衝立を用いて出来るだけ感染者との接触を避ける方法を描いたポスター、また、マスクの使用方法や作り方を図解するなど、人々に分かり易い形で伝えていきます。千葉町では、マスクが品切れになり、家庭で作ることも奨励しました。令和の現在で行っている予防方法と全く同じであることにも驚きます。

医療機関の整っていなかった時代でしたから、感染者が出た家庭では、派出看護婦に依頼して養生をするということが行われました。派出看護婦とは患家からの要望で自宅療養中の患家に住み込みで付き添う看護婦のことです。史料は、派出看護婦を統率している看護婦会の会長の談話として、派出看護婦の忙しさを訴える新聞記事です。千葉市域の看護婦会に所属してい

る看護婦だけでは不足して需要に応えられない状況や、看護婦自身は食事を摂る時間もなく、過労状態であることなどを語っています。そのため、東京からの応援を依頼したことなどにも触れています。

小説家の志賀直哉は、大正6～12年の流行性感冒が猛威を奮っていた時期に、我孫子町（現我孫子市）に在住していました。その当時の感冒感染の様子を短編小説『流行感冒』に著わしています。使用人の一人が主人（志賀直哉夫妻）に内緒で祭見物に出かけて感染してしまいました。その結果妻も感染し、筆者自身も出入の植木職人から感染して、幼い娘への感染を心配している様子が詳細に綴られています。やはり、志賀直哉の家でも、東京から派出看護婦を雇い入れた様子も描かれています。

このような私小説や一般の人々が書き綴った日記史料などから、不安な日々の様子を具体的に知ることができます。

千葉市の明治・大正・昭和がみえる!!



お宅にのこるその資料、
捨てないで!!



古い書付や写真、民具類など、台風などの自然災害やそのほかの事情により濡れてしまったり、汚れてしまった資料がありましたら、その対応のお手伝いできればと思います。

これらを捨ててしまう前に、可能であれば、**市史編さん担当（連絡先は4頁を参照ください）**までご一報ください。お宅に残る歴史や思い出を、少しでもよい形で後世に残していけるよう、できる限りのお手伝いをさせていただきます。

資料 求ム

『千葉市史』の編さんのため、古い資料・昔の写真などの情報を集めています。

ご家庭で撮影されたスナップ写真も、当時の「千葉」を知ることができる貴重な「資料」です。もちろん、いわゆる「古文書」も大歓迎です。

また、直接当時のお話を伺うことも行いたいと考えています。戦時中の体験、幼い頃の記憶など、千葉市域に関する内容をお話いただける方がおられましたら、ご連絡ください。

ご提供いただける資料、伺ったお話の内容の扱いには、十分配慮致します。

皆さまからの情報提供をお待ちしています。

2024年度 千葉市史主催 講座のご案内

◇初級古文書講座「江戸時代の村の古文書を読む」◇

くずし字初心者を対象とした講座です。全6回。

千葉市内に残された古文書のコピーをテキストとして、基本的なくずし字の確認などを丁寧に指導します。

- 定員** 午前・午後 各コース 24名 (計48名)
会場 千葉市立郷土博物館 講座室
対象 一般 (古文書読解初心者)
日程 全6回 2024/7/28(日)・8/3(土)・8/10(土)・
8/12(月・祝)・8/25(日)・8/31(土)
*同じ内容・日程で午前と午後の2コースです。
【午前】10:00～12:00、【午後】13:30～15:30
募集 市政だより(7月号)にて募集、7/9(火)必着。
講師 小代 渉先生 (株式会社東京堂出版編集部)



本年度の講座のようす

◇中級古文書講座「江戸時代の村の古文書を読む」◇

くずし字に慣れ、古文書がある程度読める方を対象とした講座です。全6回。

千葉市内に残された古文書のコピーをテキストとして、くずし字の読解、史料が書かれた背景の解説などを行います。

- 定員** 24名
会場 千葉市立郷土博物館講座室
対象 一般 (古文書がある程度読める方)
日程 全6回 2024/6/25(火)・7/2(火)・7/17(水)・7/24(水)・7/25(木)・7/31(水)
すべて13:30～15:30
募集 市政だより(6月号)にて募集、6/7(金)必着。
講師 後藤 雅知先生 (立教大学文学部教授)

申込み方法

往復はがきまたは電子申請でお申込みください。

往復はがきの場合は 住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号、講座名 を明記のうえ、下記市史編さん担当までお送りください。はがきの場合、一枚につきお一人のご応募です。

電子申請の方法ほか詳細は市政だより・千葉市立郷土博物館HPにてご確認ください。

*初級古文書講座のお申し込みには「コース名」を明記してください。

※いずれもお申込み多数の場合、抽選となります。予めご了承ください。

千葉市立郷土博物館

検索

CLICK!

問い合わせ先

千葉市立郷土博物館 市史編さん担当

TEL 043-222-8231

あとかき

ちば市史編さんだより32号をお届けします。『千葉市史 史料編11 近代2』を3月に刊行しました。本号より、『近代1』の際にも連載しました、編集委員の先生方からの掲載史料紹介と解説を復活させ、中澤先生に、大正時代の大きな災害の一つ、スペイン風邪についてご執筆いただきました。そのなかで先生もふれておられるように、大正期のもう一つ大きな災害として、関東大震災があります。令和六年元旦に起きた能登半島地震は、まだまだ復興には時間がかかると思われ、被災された方々へ心よりお見舞い申し上げますとともに、こうした災害に歴史学は何ができるのか、改めて考えたいと思います。(え)

ちば市史編さん便り 32号 Chiba-shishi News Letter No.31

発行日 2024年3月29日
編集・発行 千葉市立郷土博物館 市史編さん担当
〒260-0856 千葉市中央区亥鼻1-6-1
印刷 株式会社みつわ